

# 下野市立国分寺東小学校

## 1 学校課題

「自ら考え、互いに高め合う児童の育成」  
 ～算数科を中心に知識・技能を高め表現できる指導の工夫～

本校の教育目標である「進んで学習する子ども」「親切で実行力のある子ども」「健康でがんばる子ども」は、望ましい人間関係の中で、児童自らの課題を主体的に、粘り強く解決していく学習態度の育成を目指したものである。そのためには、児童一人一人が、土台となる各教科の基礎基本を確実に身につけていかなければならない。

今年度は、算数科の指導に焦点をあて、児童一人一人が基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、主体的に取り組み、学び合い、学力を向上させるために、それぞれに応じた学習活動を展開できるよう指導法を研究する。

## 2 研究計画

月	主な研究内容
4～5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校課題確認・共通理解（全体会）</li> <li>○家庭学習カード見直し（家庭と連携した家庭学習の習慣化をめざして）</li> <li>○学級懇談会（4/15）家庭学習のすすめ、家庭学習のやり方リーフレット配布・協力要請</li> <li>○第1回校内授業研究会（5/27）指導助言者 宇都宮大学 松本敏 教授（S&amp;U第1回） 下野市教育委員会 稲見雄太 指導主事</li> </ul> <p>6年「分数のかけ算」習熟度別少人数指導</p>
6～12	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第2回授業研究会（6/12） 2年「100より大きい」 4年「がい数」TT</li> <li>○家読リレー開始（6/15～）</li> <li>○校内授業研究会（6/22）出前授業 宇都宮大学附属小学校 仁平 智子 教諭（S&amp;U第2回） 4年「わり算の筆算（2）」 下野市教育委員会 稲見雄太 指導主事</li> <li>○全校計算テスト①（7/1～16）</li> <li>○第3回授業研究会（7/3・8） 3年「表と棒グラフ」5年「整数の性質」興味関心高める導入</li> <li>○算数科ノートの書き方研究（全校で共通理解・指導）</li> <li>○出張報告会（8/7）</li> <li>○校内公開授業（10/30） 特別支援学級「重さ」具体物操作</li> <li>○要請訪問（11/13）指導者 下都賀教育事務所 阿部信太郎 指導主事 下野市教育委員会 田澤孝一 指導主事</li> </ul> <p>1年「ひき算」半具体物操作 5年「分数と整数のかけ算・わり算」習熟度別少人数指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○校内授業研究会（11/19） 6年「拡大図と縮図」習熟度別少人数指導</li> <li>○読書週間（11/30～12/4）教師の読み聞かせ</li> <li>○全校計算テスト②（12/1～18）</li> <li>○校内公開授業（12/4） 1年「ながさくらべ」</li> <li>○学校課題研修 成果と課題（12/9）</li> </ul>
1～2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内公開授業（1/15） 3年「小数の表し方」TT</li> <li>○校内公開授業（1月中旬） 2年「九九の表」</li> <li>○全校計算テスト③（2月下旬）</li> <li>○本年度の反省及び次年度の課題</li> </ul>



### 3 研究内容

児童が基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、主体的に取り組み、学び合い、学力を向上させられるよう指導法の工夫・改善の研究をする。

#### (1) 授業研究の充実

- ① 「学習のきまり」「学習スキル」の徹底
- ② ねらいを明確にしたわかる授業の実践→ねらいに対する振り返りの実践
- ③ 興味関心を高める効果的な導入の展開
- ④ 教科学習での体験的活動の重視
- ⑤ ノート指導の工夫→算数ノート記入例作成、全校共通理解・指導

#### (2) 一人一人の課題に応じた学習活動

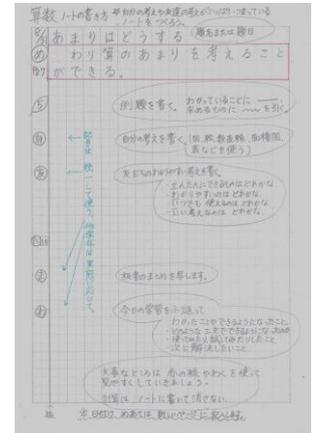
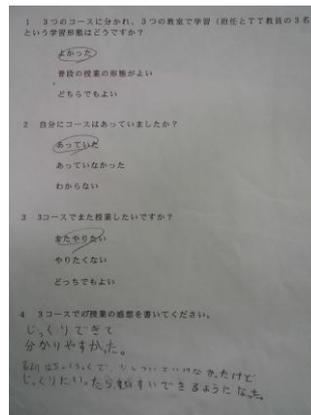
- ① 習熟度に応じたコース別学習の展開
- ② 教材、学習資料の作成
- ③ 補充的な学習の実施
- ④ 発展的な学習の実施

#### (3) 指導体制の工夫

- ① 一斉指導
- ② グループ活動（ペアワーク・班活動）
- ③ 少人数指導（TT指導）
- ④ 課題選択学習

#### (4) 家庭学習の習慣化

- ① 家庭と連携した家庭学習の習慣の定着（家庭学習カード）
- ② 学級懇談会、学年通信での啓発
- ③ 家読推進による家庭での読書の習慣化



### 4 本年度の成果と課題（○成果 ●課題）

- ノートの書き方を全校で共通理解して指導できたことから、児童が見やすく分かりやすいノート記録ができるようになり、思考が整理されるようになった。
- 習熟度、解決したい課題に応じてコース別学習の展開の研究が深まり、児童・保護者からも好評だった。
  - ・多様な考えを出させたい時間は通常クラスで指導し、問題演習、習熟、作図等少人数が効果的な時間はコース別で指導する。
  - ・コースの設定の仕方、コースの人数と指導者の配置の仕方。
- 発表シート活用により、児童の考えを文や図でも表現し、学び合いを進められるようになった。
- 家庭学習カードの活用、家読推進により家庭での学習の意識が定着してきている。
- ねらいに対する振り返りを自分の言葉で書かせることが難しい。
  - ・キーワードを示す、フォーマットを与えるなどの手立てを研究したい。
  - ・ねらい自体が見極められていない、絞り込めていないことから適切な振り返りがなされないこともあるので、指導者側の教材研究を深める。
- 習熟度別学習だけでは対処できない個人差に対応する補充的な指導時間の確保が難しい。
  - 対象児童への焦点化指導や教職員連携による指導時間の確保を図っていききたい。
- 家庭学習についてはカードや家読により意識が高まった家庭も多数見られたが、カードの検印が形骸化してしまっていたり、継続的取組が難しい児童の固定化がみられたりした。
  - 意識付けにつながる働きかけを試み、共有化していききたい。